

2026 年 6 月 26 日

初めに、昨日 7 時過ぎ、青森県で最大震度 6 強の地震が発生いたしました。政府の発表によれば負傷者も出ているとのことで、大変心を痛めております。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

第 79 回日本船主協会の総会に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

まず、昨年 6 月の当協会会長就任以来、当協会の運営、諸課題への対応に当たりまして、会員会社の皆様、また本日お越しの国土交通省の皆様をはじめとする多くの関係方面の方々から、多大なるご支援、ご協力をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、当協会は「安定的な海上輸送を通じて産業と生活を支え、世界経済の健全な発展に寄与する」という使命のもと、先ほど決議された「2026 年度事業計画」を確実に遂行していく所存ですが、その中でも特に私が重要と考える点をいくつか申し上げます。

第一に、自由で安全な航行の確保であります。

本年 2 月 28 日の米軍・イスラエル軍によるイラン空爆以降、ホルムズ海峡が封鎖され、いまなお日本関係船舶 35 隻、その船員約 800 名を含む多数の商船がペルシャ湾内に留め置かれるという極めて深刻な状況となっております。今般、米国とイランの間で戦闘を終結させるための覚書が締結されたことは、海運業界にとって、事態の収束に向けた大きな前進であると受け止めておりますが、その後も再封鎖が宣言されるなど、予断を許さない状況が続いております。完全な停戦合意、そして航路の安全確保を大前提として、通航料が課されることのない、自由なホルムズ海峡に戻すことも、必要不可欠です。

また、ロシア・ウクライナ紛争の長期化、ソマリア沖・アデン湾周辺海域の海賊事案など、海運に影響を及ぼす地政学的リスクが世界各地で顕在化しております。

国際海上輸送の大前提は「平和で開かれた海」です。安全かつ安定的な航行の確保に向け、引き続き関係者の皆様へお力添えをお願いするとともに、これまでの対応に心より敬意と感謝を申し上げます。

第二に、わが国外航海運の国際競争力の強化に向けた海運政策です。

海運税制については、「国際船舶に係る登録免許税および固定資産税の特例措置」が本年度末に期限を迎えます。日本籍船を保有するうえで、両税は大きな制約となっておりますので、特例措置の延長・改善に向け取り組んでまいります。また、2027 年度末にはトン数標準税制が期限を迎えますので、次期制度が現行制度利用会社のみならず、会員会社の国際競争力強化に資するものになるよう、国土交通省海事局と緊密に連携し、積極的に検討を進めてまいります。

さらに、日本の経済安全保障の観点からも、島国日本にとって、海運・造船を中心とした海事産業群の強靱化は喫緊の課題です。日本籍船制度の抜本的な見直しにより、日本籍船が誰しも「持てる船」となるよう取り組むとともに、政府の危機管理投資の戦略分野の一つに位置付けられ、建造量倍増、修繕能力の確保、LNG 運搬船の国内再建造といった柱が掲げられた造船再生にも、造船工業会をはじめとする各団体と連携して対応してまいります。

第三に、脱炭素をはじめとした環境問題への対応です。

脱炭素化の潮流の中、海運業における GHG 排出削減は避けて通ることのできない重要課題です。EU-ETS や FuelEU Maritime といった地域規制が開始される中、世界の物流を支える海運業界が実効的かつ合理的に GHG 削減に取り組むためには、グローバルに統一された枠組みの構築が不可欠です。2025 年には、IMO におけるグローバルな枠組みである「IMO ネットゼロフレームワーク」の採択が、一年間見送られる結果となりましたが、引き続きわが国政府や国際機関と連携し、国際的な合意形成に向けた議論に積極的に参画するとともに、会員企業への情報提供、そして政府との連携をさらに強化してまいります。

これら諸課題に対応していくためにも、優秀な海事人材の確保・育成は欠かせません。

船員養成機関で学ぶ学生たちが将来に希望を持ち、海運業界を志すことができるよう、JMETS をはじめとする教育機関と連携し、日本郵船、商船三井、川崎汽船の 3 社を中心とする業界からの大型練習船の寄贈の検討を開始しております。

また、商船や海事施設の見学会、PR ブース出展、SNS 発信を通じて海運業界に対する社会全体の認知度を高めるとともに、学研まんが「海運のひみつ」の制作や教育関係者への働きかけにより、将来を担う子供たちへ海運の魅力と重要性を伝えてまいります。

最後になりますが、わが国海運が「国民の信頼に応え続ける存在」であり続けるために、鋭意努力し、安全で安定した物流を維持し、人々の暮らしと産業を支える責任を果たしてまいります。引き続きのご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

以上